

令和4年度 放課後活動指導者研修① 実施報告

実施日：令和4年5月26日（木）

◎当研修は、子どもたちが地域社会の中で、安全に、心豊かに育まれる環境づくりを推進している放課後子ども教室や放課後児童クラブ関係者の資質向上を図るための研修です。第1回はオンラインで実施し、56名の方が御参加くださいました。

○説明「子どもの放課後を支えるために」栃木県教育委員会事務局生涯学習課 副主幹 和久 真
放課後活動の主な事業とその特徴、意義、今後の方向性について説明がありました。受講者は、子どもが家庭の事情に左右されず、学ぶことができる環境づくりの重要性、子どもたちの生きる力の育成のために地域と学校が連携・協働する必要性を確認しました。そして、子どもが主体となった体験が子どもたちの成長によりよい影響を与えることを念頭におき、多様な体験の機会提供が必要であることを理解しました。

○講話「放課後活動指導者に求められるもの」東京学芸大学理事・副学長 松田 恵示 氏



松田先生は、社会意識論の立場から「遊び文化」を研究し、あらゆる場面で「遊び」を取り入れた活動・普及に熱心に取り組まれています。

今回の講話では、はじめに Society5.0 の時代を迎え、現在の子どもの教育環境は大きく変化していることについて、動画を交えて説明がありました。その後、子どもと大人ではものの見方(見え方)が異なることから、子どもを理解するには、子どもの立場に共感した理解が必要であり、大人が子どもと同じ方向を見る「共視」が重要であると指摘されました。

また、メディアの技術革新によるコミュニケーション構造の変容など、社会環境の変化により、他者を排除する風潮があるが、子どもたちの成長という目的のために、立場の違う人同士のつながりが大切であることなど、放課後活動の指導者にとって必要な知識・考え方が示され、受講者が今後の放課後活動への関わり方を改めて考える時間となりました。

★ 受講者の声 ★

- ・ 昔ながらの遊びや学びももちろん大切ですが、時代に合わせ子どもたちが楽しく遊べる環境を作ったり、同じ目線に立てるよう知識を深めたりと、指導員として学ぶことが沢山あるのだと気付かされました。
- ・ 放課後活動とは家庭と学校との間で子どもたちと接する大切な場所であることを認識しました。子どもと共感、共視できる支援員になりたいと思いました。
- ・ 子どもの「遊び」について、間・動き・遊戯関係（安心感）の3つの要素が子どもの「遊び」に繋がるということは新鮮な学びでした。
- ・ 子どもたちは大人が経験していなかった環境の中で今を生き、これから生きていくことになるのだと改めて強く感じました。その中で大人とのかかわり方はとても重要だと感じました。

研修内容の詳細に関するお問い合わせは栃木県総合教育センター生涯学習部まで

TEL：028-665-7206 e-mail：skc-syougai@pref.tochigi.lg.jp